



## ゆずり合う日本人

チュオン ホアイ アン  
TRUONG HOAI AN

日本に来てから、もう二年になりました。私は実習生として、日本で働いています。

毎日、私は自転車で通勤しています。私が住んでいる寮から会社まではあまり遠くないですが、交差点がたくさんあります。ある日私が信号のない交差点に着くと、遠くから走ってくる車の運転手が私を見て、だんだんスピードを落としました。そして車を止めて、手で合図しました。それは「どうぞ道路を渡ってください」と言っているようでした。その止まってくれた車の後ろに、後から走ってきた車がだんだん増えて、道路に長く並びました。私は、道路は車が優先のはずなのに、私ひとりのためにあの運転手が道をゆずってくれたのはどうしてなのか考えました。ベトナムではこういう事があまりないからです。それで私は、乗り物が自転車だったから、もしくは私が外国人ということが分かったからではないかと考えました。

私は、組合の人にこの話をしました。すると、「車が優先の道路でも、日本人はゆずりあいの気持ちを持っているからですよ」と笑顔で言いました。そして、道路ばかりでなく生活でもどんなことでも、日本人はゆずりあって「どうぞ」と言います、と説明してくれました。

あれから時間が流れた今も、私は毎日その道を通って、そして交差点で道をゆずってもらっています。ゆずってもらえる理由も分かったの

で、自転車の時でも、歩きの時でも、私はいつも幸せな気持ちで道路を渡っています。

ゆずりあいの気持ちを持つということは、口で言うようには簡単ではないと思います。ゆずりあうことは、相手の気持ちを考えることだと思うからです。

私は実習生として、集団生活をしています。その生活の中では色々な事があるので、皆が相手の気持ちを考えて、ゆずりあいの気持ちを持てば仲よく生活ができると思います。私は、道路で道をゆずってもらったおかげで、そう考えることができるようになりました。

私は、日本での実習期間が終わって帰国した後、日本語の先生になるのが夢です。夢を達成するために日本語の勉強を頑張っています。日本にいられるうちに、日本語や、日本人のゆずりあいの気持ちについていろいろ教えてもらって、日本の文化と習慣をできるだけ多く身に付けたいと思います。そして日本で実習したい人に、日本の文化と私の日本での体験を教えたいです。特に、日本人のゆずりあいの気持ちを持っていることを話したいです。

国	籍	ベトナム
職	種	機械加工
実習実施者	株式会社 I N ステンレス加工センター	
監理団体	関東情報産業協同組合	